2006年5月13日

放送コンテストに参加するみなさんへ

高文連放送情報専門部理事
海 部 弘

2006年度 NHK 全国高校放送コンテストの効果音・音楽にかかる著作権処理について

※どうして著作権処理が必要か？

学校での活動のみなら著作権処理は不要。

コンテストは対外活動。宣伝活動。 → 著作権処理が必要

1. なるべくオリジナルの音源を使う。

安易に市販の音源を使わない。効果音は生録を試みる。

自分で作詞・作曲・自演なら、許諾は必要ありません。

(注意) ブラスバンド部が、自作でない曲を演奏し、それを録音すると隣接権処理はパスできるが、著作権処理は必要です。

2. ネット上の音源は使用しない。

「著作権フリー」との表記があっても、誤っている可能性が大。

よってHP管理者に連絡が取れでも不可。

(HPの作者自身が著作権のことをわかっていないことが多い。)

3. CDから録音する場合。

レンタルCDは使用できません。学校所有か自校生徒所有のものに限ります。

著作権隣接権処理と、著作権処理が必要です。

CD業者に赤本「様式2-7」を用いて別表(1)の番号にFAXします。

2・3日後には返事がきます。こない場合は電話を入れてください。

無償で許諾の場合は次に進んでください。

有償で許諾の場合は、実は使ってほしくないという場合もあります。顧問とよく相談して使用・不使用を決めてください。大会本部では、隣接権にかかる費用についての補助は全くありません。

不許諾の場合は当然使用できません。

つづいて、

JASRACのページ左下にある「J-WID」で検索し、「作品詳細表示」のページを印刷。

ラジオ番組の場合は「録音」にTV番組の場合は「ビデオ」に「○」があることを確認。

ラジオの場合は(別表2)「録音利用明細書」(3部作成し、1部は台本添付。2部は提出。コピー可。)テレビの場合は(別表3)「映像ソフト録音利用明細書」(4部作成し1部は台本添付。3部は提出。コピー可。)に記載して、「県のプリント12 JASRAC 領収書」と共に神奈川大会当日の朝、著作権の窓口に釣り銭のないようお金を添えて提出。

記入方法は赤本にあります。

ラジオのIとLの欄も記入してください。

4. 自校生徒が演奏した、自作ではない曲の録音。

著作権の処理が必要です。

JASRACのページ左下にある「J-WID」で検索し、「作品詳細表示」のページを印刷。

ラジオ番組の場合は「録音」にTV番組の場合は「ビデオ」に「○」があることを確認。

「県のプリント12 JASRAC 領収書」・ラジオの場合は「録音利用明細書」(2部作成します)テレビの場合は「映像ソフト録音利用明細書」(3部作成します)に記載して、大会当日の朝、著作権の窓口に、お金を添えて提出。

5. 効果音等、メロディのない市販の音源を使うとき

著作権は「芸術的・創造的なもの」に与えられる権利です。

よってドアを閉める音などには著作権は存在しません。

しかし、それをCDに録音して販売している場合は、CD業者に「著作権隣接権」が生じます。

よって著作権隣接権のみの処理をします。

「著作権フリー」と書いてあっても著作権隣接権はフリーではない場合があります。

まず、CD業者に赤本「様式2-7」を用いて別表(1)の番号にFAXします。

一覧表から番号変更している会社もあります。

また、「FAX不可。郵送してほしい。」という会社もあります。ケースバイケースで対処してください。

2・3日後には返事がきます。こない場合は電話を入れてください。

「無償で許諾」の場合は次に進んでください。

「有償で許諾」の場合は、実は使ってほしくないという場合もあります。顧問とよく相談して使用・不使用を決めてください。

大会本部では、隣接権にかかる費用についての補助は全くありません。

「不許諾」の場合は当然使用できません。

許諾の場合「音楽の森」で検索して該当ページと様式2-7を台本に添付する。

(JASRACからリンク。または「音楽の森」で検索。<http://www.minc.gr.jp/>)

メロディのない効果音のみなら当日 JASRAC 関係の処理は必要ありません。

6. 「EX インダストリー」「サウンド・ファクトリー」「ファンダンゴ」「アーキー」については、様式2-6の記載のみで使用できます。(ただしサンプルCDは不可)

ジャケットコピーの必要もありません。

ネットからのダウンロードも可能です。

7. すべてに共通して、「様式2-6」を台本末尾に添付してください。

8. 何か具体的な事例で、不明な点があれば、すぐに海部までメールしてください。

kaifu@e01.itscom.net